

# 櫻だより



氷見市立北部中学校

令和5年2月7日

## 啐啄同機

立春を過ぎ、少し寒さも和らいできたのでしょうか。

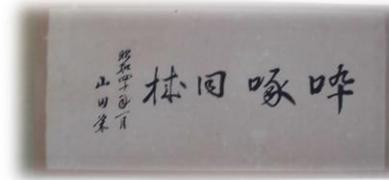
週間天気予報を見ても、雪マークが少なくなってきたように思います。

このまま春に？ いやいや油断は禁物。

県立入試の時に雪が降り、路面が凍結した年もあった。

3月の春中ハンドの時に雪がちらついていた年もあった。

油断せず、気を引き締めていきましょう。



さて、校長室に啐啄同機（そったくどうき）という昭和40年に書かれた扁額があります。

禪の言葉で知っている人も多いと思いますが、改めて説明します。（啐啄同時という語もあり）

**雛鳥が殻を破ってまさに生まれ出ようとする時、内側からコツコツとつつくことを「啐」**

**ちょうどその時、親鳥が外から殻をコツコツとつつくの「啄」**

**雛鳥が内側からつつく「啐」と親鳥が外側からつつく「啄」によって殻が破れて雛が出てくる**

**殻を破ることができるのは、禪僧の師と弟子の呼吸がぴったり合った時だという例え**

伸びようとする生徒のタイミングに合わせ、コツコツと外側から指導、助言する。

先日の市青少年意見発表会での本校2年生女子の発表は素晴らしかったが、あの発表の陰に指導者の「啄」があり、殻を破った生徒が生き生きと発表できたのではないかと思う。

先週紹介した「僕に方程式を教えてください 少年院の数学教室」には、こう書かれていた。

外側からの教育的な刺激と、内側からの自発的な意志とが両方ないと教育は成立しない

教育者による外側からの刺激が、被教育者（生徒）によって自発的に受け入れられた場合のみ、被教育者の内側で学習が起きるのだ

教師の刺激がどれだけ素晴らしくても被教育者に自発的に受け入れられない場合は、被教育者の学習にはつながらないということ。

一生懸命に教えた（つもり）、伝えた（つもり）でも、生徒の自発的な意志がないと教育は成立しないということ。

教育とはなかなか難しいものだ改めて思う。

少年院入院者の言葉が心に残った。

「先生、俺たち能力はある。学力が無いだけなんだよ。だから教えてくれよ!」

入院者の多くは、小学校4年生レベルだとか。だけど、学力の必要性は感じているという。

その時々において適切な教育的な刺激と、自発的な意志が生まれていけば・・・。

私たちは「啐」が行われることを信じ、興味・関心を高める「啄」を続けていくしかない？

「啐啄同機」と少年院入院者の声、皆さんはどう考えますか？